

あいち農産物生産流通レポート

2022年7月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 露地栽培の小ギクの「深耕＋高畝処理」による品質・収量向上技術を開発	(農業総合試験場) 1
・ 外国人労働者の受入れ動向と課題について	(東京事務所) 2
◎ 地域トピックス	
・ 耕作放棄地を活用した加工用みかん新規参入の取組	(知多農林水産事務所) 4
◎ 東日本情報	
・ 東京都中央卸売市場における2021年産の愛知県産農産物の動向	(東京事務所) 5
◎ 西日本情報	
・ あいち6次産業化ネットワークについて	(食育消費流通課) 7
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の7月の見通し(県内市場)	22

※今月「フラワーページ」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

露地栽培の小ギクの「深耕+高畝処理」による品質・収量向上技術を開発

農業総合試験場

1 研究の背景

愛知県の中山間地域では、夏季の冷涼な気候を活かし、高品質な小ギクが露地栽培されています。仏花として8月のお盆、9月の彼岸の物日需要が高く、中山間地域の特産物になっています。

しかし、高齢化等により生産量が減少傾向にあり、産地強化のためには省力化とともに、単収増加や切り花の品質向上が必要です。

そこで、畝立ての方法に着目し、耕起の深さと畝の高さの違いが根域に及ぼす影響と切り花品質及び収量の向上効果を検証しました。



小ギクほ場

2 試験結果と期待される効果

山間農業研究所内の露地ほ場において、耕起の深さと畝の高さを変えて畝立てを行い、比較試験を行いました（表1）。

表1 試験区の設定

試験区	耕起の深さ	畝の設定
深耕+高畝処理区	畝上部面から深さ 40 cmまで ロータリー耕耘機及び人力で耕起（深耕）	幅 80 cm、高さ 20 cm （高畝）
慣行区	畝上部面から深さ 15 cmまで ロータリー耕耘機で耕起（慣行）	幅 80 cm、高さ 10 cm （慣行）

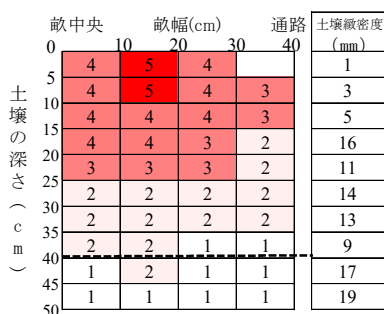
深耕+高畝処理区では、慣行区に比べ、緻密度が低く膨軟な土壌の容積が大きくなり、膨軟な状態が収穫終了時まで維持されました。根域は、慣行区で深さ 15 cmまで認められたのに対し、深耕+高畝処理区では深さ 45 cmまで広がりました（図1）。

切り花品質については、深耕+高畝処理区で、出荷規格の 75 cm調整重が 45g 以上の優良階級の割合が慣行区より増加し、出荷できない 24g 未満の階級は減少しました（図2）。

小ギク栽培に適した耕地に限りがある中山間地域において、深耕+高畝処理を行い土壌の物理性を改善することにより、優良階級の切り花割合が高まり品質が向上するとともに、可販化収量が増加し、農家所得の向上と産地の活性化が期待されます。

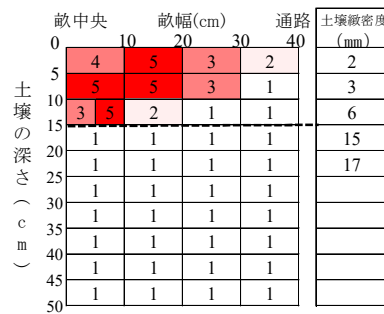
深耕+高畝

（畝高 20cm、畝の上部表面から 40 cmが膨軟）



慣行

（畝高 10cm、畝の上部表面から 15 cmが膨軟）



* 土壌緻密度は山中式土壌硬度計の表示値



* 根量は5段階評価

図1 土壌横断面における根域及び土壌の緻密度（2020年）

注）図中の点線は試験開始時の耕起の深さを示す。

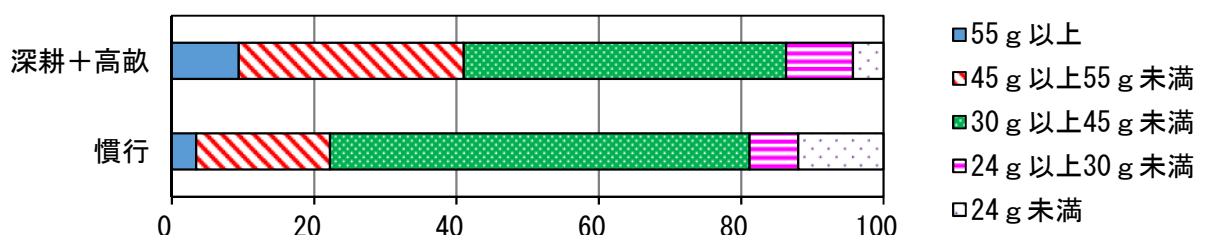


図2 深耕+高畝処理と慣行における階級割合（75 cm調整重）の比較（2020年）

外国人労働者の受入れ動向と課題について

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

公益社団法人大日本農会の主催で、令和4年度第1回農業懇話会が5月20日(金)に開催されました。「農業分野における外国人労働者の受入れ動向と課題」を演題に、北海学園大学の宮入隆教授から報告がありましたので、その内容を紹介します。

1 増加し続ける農業分野における外国人労働者

(1) 外国人労働者数の推移

農業分野では外国人労働者への依存が深化しており、コロナ禍による入国制限や渡航禁止がある中でも外国人労働者数は一貫して増加しています。農業分野における外国人労働者数は2021年10月現在で38,532人と過去最高の人数を記録し、コロナ禍前の2019年に比べて約3,000人増加しています。

なお、コロナ禍で外国人の入国が制限されたうえ、技能実習制度^{※1}に加えて、2019年に特定技能制度^{※2}が創設されたことで、技能実習生から特定技能外国人への移行が進み、技能実習生の割合は低下しています(図1)。

※1 **技能実習制度**: 開発途上国の人材育成を行うため、報酬を伴う技能実習や研修を行う制度。農業関係では、耕種農業のうち「施設園芸」、「畑作・野菜」、「果樹」、畜産農業のうち「養豚」、「養鶏」、「酪農」の2職種6作業が対象であり、在留期間は1号1年、2号2年、3号2年と移行することで最長5年。実習計画に基づいた農作業を中心に従事し、加工や選果業務も限定的に可能。本制度で就労する外国人を「技能実習生」と呼称する。

※2 **特定技能制度**: 特に人材を確保するのが困難な14業種を対象として、外国人が就労できる制度。各業種に関わる相当程度の知識または経験が必要。農業は特定技能1号の対象業種であり、在留期間は最長5年。耕種、畜産の区分があるものの、全般作業に従事可能。本制度で就労する外国人を「特定技能外国人」と呼称する。



図1 全国における農業分野で雇用される外国人労働者数の推移

資料: 厚生労働省「外国人雇用状況」の届出を基に農林水産省作成。

注: 各年10月末時点。専門的・技術的分野の2019年以降の数値には、「特定技能外国人」も含まれる。

(配付資料から抜粋)

(2) 外国人労働者数の各県別雇用状況

農業分野における外国人労働者 38,532 人のうち、20%が茨城県、10%が北海道、9%が熊本県内で雇用されています。愛知県は5番目に多く、7%を占めており、上位10県で全体の7割を占めています。

なお、通年雇用が可能な茨城県や熊本県は、外国人労働者のうち技能実習生の割合が高くなっています。愛知県も技能実習生の割合が比較的高いと考えられます。

一方、数か月の雇用が多い寒冷地である北海道、長野県の高原産地といった地域は技能実習生の割合が低く、特定技能外国人への移行が進んだ可能性が示唆されます。特定技能制度では実習計画にとらわれず様々な作業に従事できるほか、派遣形態なら季節雇用できることなどが要因と考えられます。

2 組織的な受け入れを行う北海道

北海道では、規模拡大の進展により家族経営の範疇を超えた経営が展開されるのと対照的に、高齢化に加え、過疎化の進展により労働力の供給ができないため、担い手の不足よりも農業労働者の不足が顕著になり、より広域的な労働力調達の結果として、外国人材の受入が行われるようになりました。

(1) 受入方式

北海道では、各農協が独自に監理団体^{※3}となり、地域での技能実習生の受入体制を確立しました。また、農作業請負方式も普及しました。

農作業請負方式では、事業協同組合が監理団体、農協が実習実施機関となり、秋から春は選果施設が実習の場となる一方、春から秋は組合員の農家との作業受委託により農家のほ場が実習の場となります(図2)。

さらに、特定技能外国人については、JA北海道中央会の指導で酪農ヘルパー利用組合での活用が始まるなど、外国人労働者の受入ルートは多様化しています。

※3 監理団体：外国人技能実習生を受け入れ、実習実施機関で技能実習が適正に行われているかの確認や指導などを行う。

(2) 受入体制の整備

受入体制の整備にも組織的に取り組んでおり、住居施設やWi-Fi整備のほか、①通院時の付き添いやメンタル面のサポートなどを行う外国人スタッフの職員化、②日本語の勉強会実施・試験対策の実施、③実習生の存在を地域に周知するための地域イベント等への参加、④母国の食材を地元スーパーにおいてもらうなどの食材調達支援を行っています。

北海道では、外国人労働者が安心して働ける職場、安心して生活できる地域にするよう様々な取組を行い、労働力不足の深刻化によって求められる長期安定的な労働者の確保につなげていこうとしています。

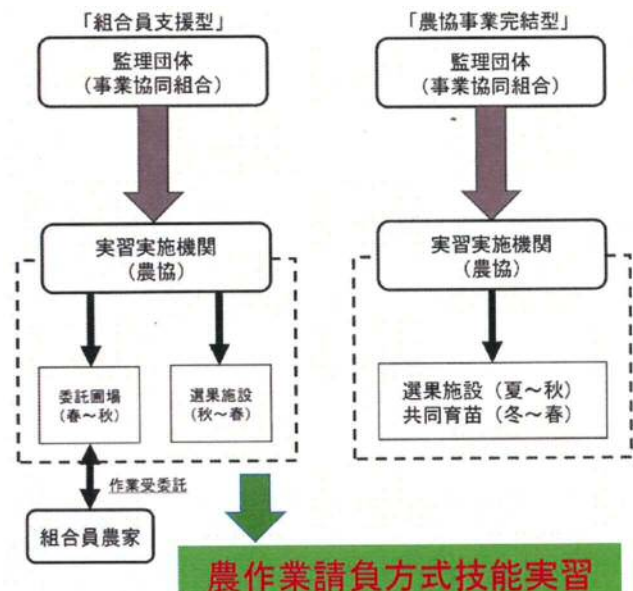


図2 北海道での技能実習制度の受入方式
(農協が実習実施機関の場合)

(配付資料から抜粋)

耕作放棄地を活用した加工用みかん新規参入の取組

知多農林水産事務所

知多地域は全国でも有数のかんきつ産地です。しかし、近年では生産者の減少や耕作放棄地の増加が問題となっていました。

一方、国内果樹産地のみかん品種は生食向け品種が中心で、加工に適した品種はほとんど生産されていません。そのため、缶詰メーカーであるトーアス（株）（豊川市）が、みかん缶詰への加工に適した国産原料を確保するために、加工用品種の栽培に自ら取り組もうと、農業への新規参入を希望しました。

これをきっかけとして、現在では、地域一体となった取組が展開されています。

1 農地の確保

トーアス（株）は、あいち知多かんきつ出荷組合とのつながりがあったことから、知多半島での栽培を希望しました。そこで、半田市及び半田市農業委員会の協力により、当時耕作放棄地となっていた農地を中心に、2020年度から順次、農地の賃借権を設定し、栽培用の園地を確保しました。



園地用に確保した耕作放棄地

2 産地の対応

産地で策定する「果樹産地構造改革計画」に、加工用品種の振興を位置づけ（2021年3月一部改正）、苗木の新植に国の補助事業が活用できるようにしました。

主な加工用品種は、「大津4号」「林温州」で、缶詰加工適性として、実が固く、外皮が剥きやすいことが特徴です。

3 作付の開始

確保された農地には、トーアス（株）が整地などを実施した上で、2020年度から自己資金を用いて苗木の新植を順次開始しました。2021年度末時点で自己資金に加え補助事業を活用し、耕作放棄地を中心に約7haの樹園地が形成されています。



苗木植え付け後
（上の写真と同じ場所）

4 今後の展望

トーアス（株）は13haの栽培を目標に、今後も農地の確保や園地整備、新植等を進めていきます。収穫開始は2025年度の見込みです。収穫された加工用みかんは、グループ企業の国産みかん缶詰加工会社である岡本食品（株）（名古屋市）が製品に使用する予定です。

東京都中央卸売市場における 2021 年産の愛知県産農産物の動向

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2021 年産（2021 年 1 月から 2021 年 12 月まで）の東京都中央卸売市場（9 市場）での本県産農産物の総取扱額は 288 億円（シェア 4.6%）で 47 都道府県の中で第 7 位でした。

なお、本県産農産物の内訳は野菜が 152 億円（前年対比 96.4%）、果実が 18 億円（同 92.6%）、花きが 118 億円（同 110.5%）となりました。

1 野菜の動向

東京都中央卸売市場での野菜の総取扱額は 3,478 億円（△5.8%、216 億円減）で、前年をやや下回りました。

本県産について、キャベツは、前年同様に台風等の被害はなく作柄良好で入荷は潤沢となり、前年のような家庭内需要の高まりはなく単価は低迷し続けたため、取扱額は前年を大幅に下回りました。トマトは、1 月以降、業務需要の低迷に加えて、暖冬により入荷は潤沢で単価は低迷したものの、5 月以降は平年より数量が少なく単価が持ち直し、11 月下旬以降も数量が少なく堅調な単価で推移したことから、取扱額は前年並となりました。ブロッコリーは、前進出荷のため 1 月は数量が少なく高値となった一方、2～4 月は順調な入荷で安値となりました。11 月以降、特に 12 月は再び高値となったことで、取扱額は前年をかなり上回りました（表 1）。

表 1 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（野菜）

（単位：千円）

品目	2021 年	前年対比	順位(シェア)*	上位産地
野菜合計	15,249,726	96.4%	7位(4.4%)	①茨城、②千葉、③北海道
キャベツ	3,211,615	82.5%	2位(21.7%)	①群馬、③千葉
トマト	2,648,719	99.4%	3位(9.6%)	①熊本、②栃木
ミニトマト	2,343,610	98.2%	2位(15.7%)	①熊本、③北海道
おおば	2,740,486	101.2%	1位(87.0%)	②茨城、③大分
ブロッコリー	885,023	109.1%	6位(6.8%)	①北海道、②香川、③熊本

*順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

2 果実の動向

東京都中央卸売市場での果実の総取扱額は 1,878 億円（+3.6%、65 億円増）で、前年をやや上回りました。

本県産のいちじくは、露地ものの最盛期である 8 月に長雨の影響で品質が低下し、出荷できなくなる果実が多く入荷量を大きく減らしました。また消費も鈍く単価は前年並みにとどまったことから取扱額は前年をやや下回りました。いちごは、5、6 月は出荷前進により切り上がりがあったこと、12 月は中旬以降の冷え込みで生育が停滞したことにより入荷量が少なく、取扱額は前年を大幅に下回りました。かきは天候不順による生理落果の多発や、カメムシ被害等の影響で入荷量を大きく減らしました。単価は他産地からの入荷

も少なく、引き合いが強かったため前年をかなり上回りましたが、取扱額は前年を大幅に下回りました（表2）。

表2 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（果実）

（単位：千円）

品目	2021年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
果実合計	1,784,111	92.6%	19位(1.0%)	①栃木、②青森、③山梨
みかん類	425,432	99.0%	8位(1.5%)	①愛媛、②静岡、③長崎
いちじく類	418,860	95.1%	1位(48.1%)	②和歌山、③福岡
かき類	378,324	79.3%	6位(5.6%)	①和歌山、②奈良、③福岡
いちご類	202,826	78.8%	11位(0.6%)	①栃木、②福岡、③茨城
メロン類	90,635	108.8%	9位(0.9%)	①茨城、②静岡、③熊本

*順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

3 花きの動向

東京都中央卸売市場での花きの総取扱額は848億円（+12.1%、91億円増）で、前年をかなり上回りました。

本県産について、バラやカーネーションはブライダル需要などが回復したことや輸入ものの入荷が不安定なこともあり単価を大きく伸ばしました。また前年に続き観葉植物の需要が高く、取扱数量は前年に比べかなり上回り、単価も前年をかなり上回りました。一方、菊類については、葬儀需要の低迷が続き単価は前年並となりました。

これらを受けて、本県の花きの合計取扱額は前年をかなり上回りました（表3）。

表3 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（花き）

（単位：千円）

品目	2021年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
花き合計	11,766,418	110.5%	1位(13.9%)	②千葉、③埼玉
切り花計	8,490,008	107.0%	1位(15.2%)	②千葉、③静岡
菊類	5,570,145	102.7%	1位(39.4%)	②沖縄、③茨城
バラ類	1,006,433	120.0%	1位(18.1%)	②静岡、③山形
カーネーション類	331,375	117.7%	3位(6.0%)	①長野、②千葉
観葉植物	1,518,815	126.8%	1位(35.2%)	②鹿児島、③静岡
鉢花	603,975	111.5%	2位(12.8%)	①埼玉、③千葉
らん鉢	380,004	108.0%	5位(8.9%)	①埼玉、②千葉、③栃木

*順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

あいち6次産業化ネットワークについて

食育消費流通課

本県では、農林漁業者等と他事業者が、地域の資源を活用し、互いに持ち寄った農林水産業に関連する情報や技術をもとに、業種の枠を超えた新しいビジネスを連携して創り出し、生産・加工・流通（販売）との一体化による農林漁業者等の所得増大など実需につなげていくことを目的に「あいち6次産業化ネットワーク」活動を行っています（図1）。

1 主な活動内容

- (1) 6次産業化等の新しいビジネス創出に係る情報提供
- (2) 会員間の意見交換
- (3) 6次産業化に係る研修会
- (4) その他、新しいビジネス創出等にあたって必要なこと

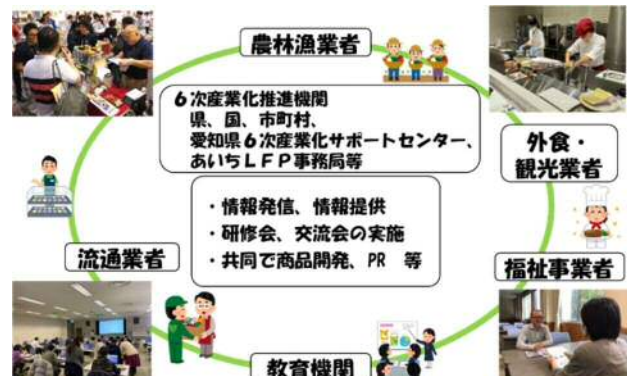


図1 あいち6次産業化ネットワーク

2 あいち6次産業化ネットワーク会員

あいち6次産業化ネットワークは、取組の趣旨に賛同し、次に掲げる会員を持って組織しています。

- (1) 1次産業者（農林漁業者及び農林漁業者組織等）
- (2) 2次産業者（食料品製造業者等）
- (3) 3次産業者（流通・販売事業者、外食・中食業者、観光事業者、金融機関、地方大学等研究機関、各種アドバイザー等）
- (4) その他 趣旨に賛同する企業、個人、団体、行政機関等

3 あいち6次産業化ネットワーク会員の募集

本県では、あいち6次産業化ネットワーク会員を随時募集しています。

詳細や申し込み方法等は、食育消費流通課のWebページでご確認ください。

URL:<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shokuiku/aichi6jikanetwork.html>

4 地域食品産業連携プロジェクト（LFP）の取組支援

今年度は、地域の農林漁業者や食品産業等を中心とした多様な関係者が参画し、地域の農林水産物が地域産業の中で有効活用されることを目指す「地域食品産業連携プロジェクト（LFP）」の構築に向け、あいち6次産業化ネットワーク会員を募集し、地域資源を活用した新たなビジネスモデル（ローカルフードビジネス）の創出を支援します。

〈主な支援内容〉

- ・あいち6次産業化ネットワーク会員の募集（7月上旬～）
 - ・ローカルフードビジネスの理解醸成を図るための講義やワークショップの開催（7/22）
 - ・ローカルフードビジネスを担う事業者のマッチング（7/28）
 - ・プロジェクトの実施に向け、専門家派遣による新商品開発や販路開拓等の支援
- LFPの取組に興味のある方は、以下のWebページをご覧ください。

URL:<https://pasona-nouentai.co.jp/event/488>

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：アールスメロン）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)
		うち愛知産	愛知産	
2021年実績	1,159	280 (24%)	796	450 静岡(35%) 愛知(24%) 熊本(20%)
2022年見通し	1,130	—	780	—
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等		
静岡、愛知、熊本からの入荷が中心となる。本県の産地での作付面積は、前年から微減。今のところ天候がよく生育順調であり、大玉中心となっている。本県産については、例年通り8月の旧盆前にピークとなる見込み。 入荷量、価格ともに前年をわずかに下回る見込み。		産地や農協と出荷情報の共有を密に行い、販売に活かしていきたい。 重油価格の高騰で、食品全般の値上げへ影響が出ているので、消費者の果実への購買意欲の低下が懸念される。 市場としては、高値で販売できるよう努力するが、客離れがないよう、引き続き品質・数量の確保と、適正な価格での取引をお願いしたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：とうがん）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)
		うち愛知産	愛知産	
2021年実績	1,888	600 (32%)	157	172 愛知(32%) 静岡(20%) 沖縄(19%)
2022年見通し	1,650	—	180	—
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等		
愛知のほか、静岡、沖縄、神奈川などからの入荷となる。 3月以降、業務需要が回復し引合が強い中、沖縄が作柄不良のため6月末に切りあがる予定で、静岡、神奈川も例年より大幅に少ないため高単価で推移している。 愛知は5月下旬に入荷を開始したが、玉伸びが鈍く量を減らすか。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。		愛知は、とうがんの品質のトップ産地として、これまでどおりに形や色を揃えるなど高品質の維持に努めてほしい。 事前情報の発信は、円滑な販売に寄与できているため引き続き実施してもらいたい。 本年については他県産の数量減が見込まれているため、特に数量の確保にも努めてほしい。		

名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	29,911	213	254	261	245	長野 27%
	2018年	29,212	242	216	215	208	兵庫 13%
	2019年	30,842	222	215	246	265	北海道 12%
	2020年	30,668	281	217	226	221	青森 8%
	2021年	35,602	208	206	207	211	群馬 8%
	5ヵ年平均	31,247	233	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	31,300	252	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野、兵庫、北海道などから入荷する。産地の切り替わりや作付面積の減少で、前年よりも少ない入荷を見込む品目が多くあるが、概ね順調な生育で入荷量は平年並を予想。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							
だいこん	2017年	1,316	82	86	86	83	青森 54%
	2018年	1,252	118	87	142	141	北海道 33%
	2019年	1,528	75	75	85	72	岐阜 11%
	2020年	1,490	115	118	114	122	長野 1%
	2021年	1,623	94	109	85	93	
	5ヵ年平均	1,442	96	96	101	101	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,400	105	110	105	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。夏場のため消費は鈍いが、経費高騰等により作付面積は減少しており、単価の底上げが見込まれる。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
にんじん	2017年	1,539	98	113	98	88	青森 63%
	2018年	1,514	157	130	176	161	北海道 32%
	2019年	1,772	119	110	122	124	中国 2%
	2020年	1,957	294	266	275	332	
	2021年	1,876	109	108	107	113	
	5ヵ年平均	1,731	159	149	159	169	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,700	150	150	150	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。青森は作付面積が減少しており、かつ生育も遅れているため、7月上旬の入荷は少ない。8月産地も遅れ気味であるため、下旬の入荷も少ない見込み。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	1 2 5, 2 2 5	2 2 6	233	227	218	群馬 17%
	2018年	1 1 7, 7 3 5	2 6 9	250	266	292	長野 15%
	2019年	1 2 0, 3 0 2	2 4 3	233	252	243	茨城 11%
	2020年	1 1 4, 9 2 5	3 0 5	285	294	333	北海道 9%
	2021年	1 2 1, 4 2 6	2 3 0	234	227	230	青森 8%
	5ヵ年平均	1 1 9, 9 2 3	2 5 4	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1 1 7, 0 0 0	2 5 0	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
群馬や長野の高冷地や、北海道、東北産地からの入荷が中心となる。生育順調な品目が多いものの、東北を除く各地が6月下旬に梅雨明けし、降水量の少なさや猛暑による今後の生育や出方が心配される。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							
だいこん	2017年	8, 8 9 1	7 6	83	71	74	北海道 55%
	2018年	7, 1 4 8	1 2 1	89	136	138	青森 38%
	2019年	8, 7 9 0	7 6	77	79	70	群馬 3%
	2020年	7, 4 7 7	1 1 4	114	112	116	岩手 3%
	2021年	7, 2 4 0	9 0	106	79	85	千葉 1%
	5ヵ年平均	7, 9 0 9	9 4	93	94	95	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	7, 1 0 0	9 5	90	95	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、青森からの入荷が中心となる。5月の干ばつによる影響は6月の降雨により解消を見込む。北海道の一部で低温等による生育遅れが懸念されるも、青森含め生育は概ね順調。安定した入荷を見込む。入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。							
にんじん	2017年	6, 5 6 2	1 0 0	112	99	89	青森 61%
	2018年	5, 8 8 6	1 4 5	118	156	161	北海道 24%
	2019年	6, 2 6 6	1 1 4	105	112	125	千葉 12%
	2020年	5, 7 5 3	2 7 2	250	254	304	埼玉 1%
	2021年	6, 0 5 9	1 0 5	106	104	105	中国 1%
	5ヵ年平均	6, 1 0 5	1 4 5	137	143	154	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	5, 9 0 0	1 5 5	150	155	160	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森、北海道、千葉からの入荷がほとんどを占める。低温や干ばつによる生育の停滞は解消されつつあり、概ね順調な生育。主力の青森がピークに入るものの細物が多く、入荷は少なめか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

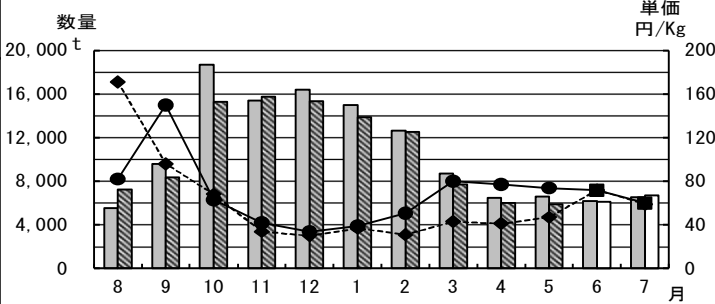
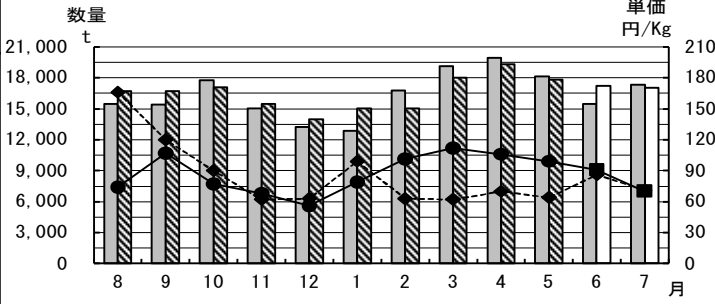
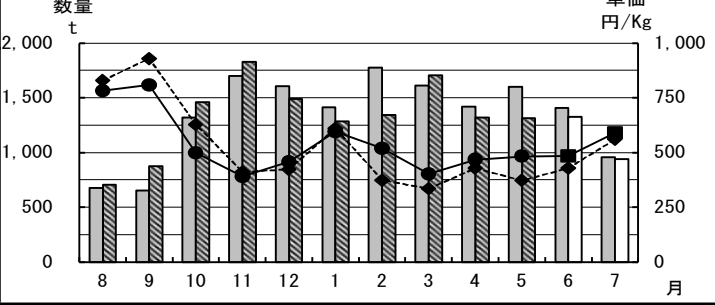
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	卸売価格			前年主要産地 (%)
				上旬	中旬	下旬	
ほうき	2017年	1,808	52	47	52	58	長野 100%
	2018年	1,616	77	66	68	105	
	2019年	2,080	66	50	65	88	
	2020年	1,968	103	78	95	139	
	2021年	2,270	63	59	63	68	
	5ヵ年平均	1,948	72	60	69	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,000	70	70	70	70	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野からほぼ全量を入荷する。産地の生育状況は順調で、安定した入荷を見込んでいる。漬物・加工用の販売については、依然として厳しい状況が続いている。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						
キヤベツ	2017年	4,486	64	68	61	66	群馬 48% 長野 32% 茨城 10% 愛知 4% 北海道 3%
	2018年	3,821	102	91	87	130	
	2019年	3,899	76	73	75	81	
	2020年	3,925	101	89	88	129	
	2021年	4,965	76	79	71	80	
	5ヵ年平均	4,219	83	80	76	95	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4,200	80	80	80	80	
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬、長野を中心に、茨城などから入荷する。今後の天候次第だが、現在の生育は良好で、順調な入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>						
ほうれんそう	2017年	186	637	592	689	656	岐阜 81% 茨城 9% 長野 5% 静岡 4% 愛知 2%
	2018年	161	725	655	744	841	
	2019年	231	568	525	624	582	
	2020年	204	759	698	745	847	
	2021年	245	600	513	652	745	
	5ヵ年平均	206	651	589	685	727	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	200	650	600	650	700	
そ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>岐阜を中心に入荷する。静岡産は上旬中に入荷が終了し、茨城産は上旬以降入荷が減少する見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2017年	6,679	55	50	53	60	長野 89%
	2018年	6,736	75	63	61	108	群馬 10%
	2019年	7,566	66	51	64	86	茨城 1%
	2020年	7,094	98	72	90	129	
	2021年	6,539	59	57	59	61	
	5ヵ年平均	6,923	71	59	66	89	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	6,700	60	65	60	55	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。主力の長野は生育順調。ピークに入り、中旬から一層量を増やす見込み。出回りは十分と見込まれる一方、暑さで需要は見込めず、相場は低調な推移となるか。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。</p>						
キャベツ	2017年	16,597	59	68	57	54	群馬 73%
	2018年	15,476	102	85	84	137	岩手 13%
	2019年	16,630	72	71	72	72	長野 8%
	2020年	16,749	99	87	83	123	茨城 3%
	2021年	17,325	71	82	61	71	千葉 1%
	5ヵ年平均	16,555	80	79	71	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	17,000	70	75	70	65	
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬を中心に岩手などからの入荷となる。群馬、岩手ともに生育良好。群馬はピークに入り、岩手も中旬にピークに入ることから、総じて潤沢な出回りとなる見込み。全体量多く相場展開は厳しいか。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>						
ほうれんそう	2017年	958	565	459	643	626	群馬 33%
	2018年	803	677	542	724	818	栃木 26%
	2019年	976	547	482	622	537	茨城 23%
	2020年	914	714	588	752	818	岐阜 6%
	2021年	960	560	440	572	741	岩手 6%
	5ヵ年平均	922	609	500	659	703	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	940	590	510	590	670	
そ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬など関東高冷地を中心に、岐阜や岩手からの入荷となる。夜間の冷えで生育が遅れる産地があったものの解消し、生育は概ね順調。主力の群馬は雨よけ主体となる。高温による生育の鈍りが懸念される。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	589	404	424	407	393	大分 29%
	2018年	524	461	433	503	450	愛知 13%
	2019年	585	418	418	422	420	北海道 11%
	2020年	516	631	557	672	662	静岡 9%
	2021年	658	401	396	398	409	茨城 9%
	5ヵ年平均	575	457	442	473	461	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	650	400	400	400	400	
ぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>大分、愛知、北海道などから入荷する。白ねぎについて、大分、静岡は7月で入荷が終了する見込み。愛知は、夏ねぎの入荷がピークとなる見込み。北海道は早期出荷が開始され、増量傾向。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。</p>						
レタ	2017年	2,478	122	111	126	131	長野 100%
	2018年	2,687	156	122	137	211	
	2019年	2,537	135	114	132	165	
	2020年	2,493	174	123	157	252	
	2021年	2,486	128	116	135	156	
	5ヵ年平均	2,536	143	117	137	183	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,500	140	130	140	150	
ス	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野からほぼ全量を入荷する。長野産は標高1,300mの高冷地のものが中心となる。産地の生育状況は良好で、潤沢な入荷を見込む。L玉中心の入荷予想。 入荷量は前年並、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						
きゅうり	2017年	1,434	269	257	282	268	長野 52%
	2018年	1,438	350	291	390	363	北海道 29%
	2019年	1,397	309	286	351	288	愛知 6%
	2020年	1,373	387	345	375	433	山形 3%
	2021年	1,719	218	199	241	219	岩手 2%
	5ヵ年平均	1,472	303	272	324	310	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,400	300	250	300	350	
り	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野、北海道を中心に入荷する。天候次第だが、夏秋作は順調な入荷見込み。昨年は単価安だったが、今期は平年並の単価となる見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	4,155	410	475	390	371	茨城 51%
	2018年	3,978	413	382	430	409	千葉 13%
	2019年	4,181	402	426	431	348	秋田 6%
	2020年	3,652	577	536	631	566	北海道 5%
	2021年	3,995	373	428	368	326	栃木 4%
	5ヵ年平均	3,992	432	448	446	400	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	3,900	420	450	420	390	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城を中心に千葉などからの入荷となる。茨城始め生育は概ね順調。関東産地の一部に降雹があったものの入荷に影響はない。中旬以降、北海道や東北が増えていくに伴い相場は下落か。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>						
し	2017年	9,867	110	97	114	119	長野 87%
	2018年	9,795	149	107	127	218	群馬 9%
	2019年	9,123	127	102	120	163	岩手 2%
	2020年	8,306	186	117	164	289	茨城 1%
	2021年	9,125	133	106	131	160	千葉 1%
	5ヵ年平均	9,243	140	105	130	187	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	8,900	120	110	120	130	
し	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野を中心に群馬などからの入荷となる。主力の長野は生育良好で、7月中旬からピークに入ると見込まれる。高温が続くと生育への影響が懸念され、入荷量も鈍るおそれがある。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
き	2017年	7,255	248	241	262	241	福島 41%
	2018年	7,448	355	312	441	323	岩手 14%
	2019年	6,595	320	306	439	236	秋田 10%
	2020年	6,625	380	339	380	412	群馬 7%
	2021年	8,177	202	191	226	193	山形 5%
	5ヵ年平均	7,220	297	274	345	278	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	7,500	250	250	260	240	
き	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>福島、岩手など東北産地からの入荷が中心となる。定植遅れや低温により1週間ほど生育が遅れる産地が多いものの、順調に入荷が増える見込み。関東産から東北産への切り替わりに端境はないか。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2017年	961	264	270	252	275	愛知 32%
	2018年	874	322	312	331	331	宮崎 24%
	2019年	922	329	289	365	354	徳島 14%
	2020年	848	405	353	397	476	山梨 11%
	2021年	1,072	278	284	266	273	熊本 7%
	5ヵ年平均	935	316	300	319	337	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	940	300	320	300	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に宮崎、徳島などから入荷する。長なすは、宮崎、愛知中心の入荷となる見込み。千両なすは、徳島、山梨で生育遅れのため、7月上旬は品薄の見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
<p>愛知を中心に宮崎、徳島などから入荷する。長なすは、宮崎、愛知中心の入荷となる見込み。千両なすは、徳島、山梨で生育遅れのため、7月上旬は品薄の見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
ト マ ト	2017年	1,602	261	254	255	272	岐阜 36%
	2018年	1,639	313	271	307	358	愛知 25%
	2019年	1,505	290	258	299	314	北海道 20%
	2020年	1,283	366	355	354	385	熊本 5%
	2021年	1,578	318	349	298	311	大分 5%
	5ヵ年平均	1,522	307	295	301	326	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,300	340	350	350	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜、愛知、北海道を中心に入荷する。冬春作は7月上旬に入荷が終了予定で、夏秋作は生育順調。梅雨等の天候次第だが、現状では平年並の出荷を見込む。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
<p>岐阜、愛知、北海道を中心に入荷する。冬春作は7月上旬に入荷が終了予定で、夏秋作は生育順調。梅雨等の天候次第だが、現状では平年並の出荷を見込む。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
ミ ニ ト マ ト	2017年	497	602	585	624	596	北海道 53%
	2018年	409	720	655	712	789	愛知 19%
	2019年	509	592	565	615	603	熊本 10%
	2020年	473	689	575	719	750	茨城 8%
	2021年	557	637	629	681	617	長野 5%
	5ヵ年平均	489	644	601	668	664	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	500	650	650	650	650	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に愛知、熊本などから入荷する。熊本は終了予定。生育は順調で、平年並の入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
<p>北海道を中心に愛知、熊本などから入荷する。熊本は終了予定。生育は順調で、平年並の入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

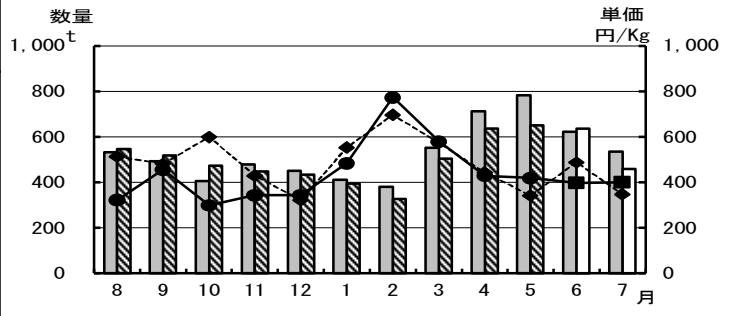
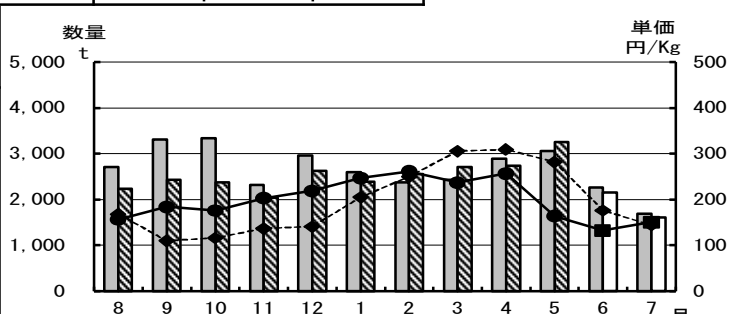
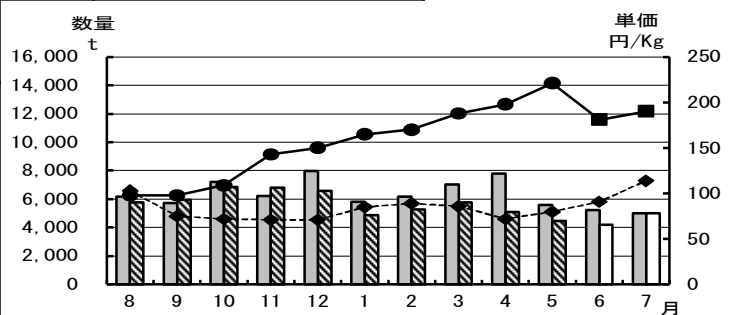
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2017年	5,077	288	314	280	273	群馬 33%
	2018年	5,111	345	343	365	328	茨城 21%
	2019年	3,908	402	335	501	383	栃木 18%
	2020年	3,793	460	408	447	532	高知 6%
	2021年	4,832	286	305	286	267	福岡 5%
	5ヵ年平均	4,544	349	338	366	346	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4,500	380	370	390	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城、栃木など関東産地からの入荷が中心となる。主力群馬の一部では降雹の影響で出荷開始が遅れるものの、全体への影響は少ないか。他の各産地の生育は概ね順調で、出回りに不足はない見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ト マ ト	2017年	8,742	272	285	274	259	北海道 17%
	2018年	8,158	333	303	339	356	青森 14%
	2019年	7,312	308	286	331	310	岩手 14%
	2020年	6,910	363	376	337	374	栃木 9%
	2021年	8,005	321	374	303	295	秋田 6%
	5ヵ年平均	7,825	318	323	315	316	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	7,900	310	330	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、東北からの入荷が中心となる。北海道は生育順調。東北の各産地は低温により遅れがみられる地域が多い。北海道や東北が本格化していく中、中旬以降増量していき相場は軟調か。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	2017年	1,952	554	533	574	557	茨城 23%
	2018年	1,769	674	643	646	731	青森 15%
	2019年	2,019	570	537	576	593	北海道 14%
	2020年	1,897	651	592	672	684	千葉 9%
	2021年	2,184	604	606	627	585	福島 8%
	5ヵ年平均	1,964	609	581	618	627	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,900	630	620	630	640	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、青森、北海道などからの入荷となる。茨城は一部で低温による生育遅れがみられたものの解消し、生育順調でピークに入る。入荷が本格化していく東北、北海道は遅れがあるも安定した入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

6月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ピーマン	2017年	430	356	351	370	368	茨城 41%	
	2018年	311	515	481	507	523	北海道 25%	
	2019年	459	437	402	432	449	宮崎 19%	
	2020年	407	579	497	585	600	高知 7%	
	2021年	536	348	358	378	353	青森 3%	
	5ヵ年平均	429	437	410	446	448	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	460	400	400	400	400		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>茨城、北海道、宮崎を中心に入荷する。高知、茨城は7月中旬で終了予定。夏秋作については、若干出遅れはあるものの、順調な入荷になる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>
	ばれいしょ	2017年	1,270	149	152	170	135	静岡 41%
2018年		1,685	80	67	84	91	長崎 27%	
2019年		1,523	173	165	178	173	北海道 12%	
2020年		1,347	395	404	418	380	青森 9%	
2021年		1,696	144	137	153	143	愛知 5%	
5ヵ年平均		1,504	181	177	193	179	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2022年見通し		1,600	150	150	150	150		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>静岡、長崎、北海道を中心に入荷する。長崎は6月下旬で終了予定。静岡は7月中旬まで計画入荷で、男爵については引き続き大玉傾向。北海道は25日前後で入荷を見込む。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年をやや上回る見込み。</p>	
たまねぎ		2017年	4,088	85	90	88	81	兵庫 79%
	2018年	4,532	88	80	99	93	北海道 9%	
	2019年	4,739	81	81	84	79	富山 5%	
	2020年	4,993	126	112	134	129	愛知 3%	
	2021年	5,876	106	105	116	100	長野 2%	
	5ヵ年平均	4,846	98	95	106	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	5,000	190	190	190	190		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>兵庫を中心に北海道、富山などから入荷する。兵庫はピークで、L中心の入荷見込み。北海道は7月末から入荷予定で、極早生はL中心の入荷見込み。富山は6月末から入荷予定で、L中心の入荷見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2017年	1,968	358	356	340	377	茨城 47%
	2018年	1,789	492	500	485	491	岩手 32%
	2019年	1,880	459	396	488	504	福島 7%
	2020年	1,970	607	544	615	665	青森 5%
	2021年	2,185	349	346	362	339	大分 2%
	5ヵ年平均	1,958	450	426	455	472	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,900	400	380	420	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>茨城、岩手からの入荷が中心となる。主力の茨城は曇雨天により生育はやや遅れており、着果や肥大も良くない。岩手も生育遅れがみられ、ピークは例年よりずれこむも出回りに不足はない見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>
白菜	2017年	5,506	136	152	138	117	茨城 33%
	2018年	5,447	73	71	74	74	静岡 23%
	2019年	5,068	173	166	180	174	千葉 20%
	2020年	4,502	336	344	332	333	長崎 10%
	2021年	4,928	139	148	146	123	北海道 9%
	5ヵ年平均	5,090	166	171	169	159	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4,900	120	120	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>茨城、静岡、千葉などからの入荷となる。茨城は生育順調。静岡は上旬にまとまるとみる。千葉は低温や干ばつで生育遅れがあったものの回復する見込み。総じて出回りは十分と見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>
たまねぎ	2017年	8,876	94	102	95	87	兵庫 48%
	2018年	8,958	94	88	92	101	佐賀 23%
	2019年	9,336	87	84	86	92	北海道 5%
	2020年	10,025	137	114	138	157	香川 5%
	2021年	9,685	117	119	121	111	愛知 4%
	5ヵ年平均	9,376	107	102	107	111	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	9,600	180	200	180	160	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>兵庫、佐賀からの入荷が中心となる。兵庫、佐賀ともに順調な生育で、収穫作業も順調に進む。2L比率は高くなく、L中心か。総じて入荷は潤沢で、北海道が出始める下旬に単価は下落するか。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>

名古屋市中央卸売市場

※アールスメロンの旬別単価は、データが存在しないため表示しない。

5月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	7,766	443	405	424	461	フィリピン 15%
	2018年	8,192	444	435	439	461	愛知 13%
	2019年	7,741	433	442	437	456	山形 10%
	2020年	7,793	448	467	442	398	長野 9%
	2021年	9,145	463	484	443	465	石川 8%
	5ヵ年平均	8,128	447	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	8,800	460	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、もも、メロン、すいかなどを中心に入荷する。各品目、春先の低温により生育は遅れ気味である。いちじくはハウスから露地への切替時期で、7月下旬から露地の入荷が始まる予想。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。						
アールスメロン	2017年	202	641	—	—	—	愛知 51%
	2018年	164	656	—	—	—	静岡 34%
	2019年	160	629	—	—	—	高知 10%
	2020年	187	549	—	—	—	茨城 5%
	2021年	164	741	—	—	—	
	5ヵ年平均	175	641	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	165	650	—	—	—		
メロン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、静岡を中心に入荷する。愛知は、一昨年は生育が前進、昨年は後進したように、今後の天候次第で生育が大きく変化する。安定した入荷で、下旬に一時減少見込み。 入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。						
すいか	2017年	2,343	195	179	190	224	石川 25%
	2018年	2,713	217	211	216	225	山形 21%
	2019年	2,664	168	197	163	149	長野 20%
	2020年	3,876	182	216	162	182	愛知 16%
	2021年	3,057	227	233	219	232	新潟 9%
	5ヵ年平均	2,931	197	209	189	201	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	3,000	220	230	210	220		
いか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	石川、山形、長野などから入荷する。山形の生育は順調だが、低温のため生育はやや遅れる見込み。愛知は4月末の天候不順で生育が遅れ、7月中旬までの入荷見込み。作付面積は、各産地激減している。 入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

6月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
果	2017年	32,851	467	461	473	山形	17%	
	2018年	33,742	465	465	448	山梨	15%	
	2019年	31,291	453	453	413	青森	9%	
	2020年	30,480	482	474	457	千葉	7%	
	2021年	34,715	497	492	479	フィリピン	6%	
	5ヵ年平均	32,616	473	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2022年見通し	33,000	500	—	—			
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	すいか、もも、メロンなどを中心に入荷する。 昨年10月から入荷量は前年より少なく、単価は前年より高く推移。 すいか、メロンの定植時の天候不順の影響により、入荷量は前年をやや下回り、単価は前年並の見込み。							
アールスメロン	2017年	573	767	805	770	713	静岡	49%
	2018年	491	788	850	772	733	茨城	13%
	2019年	521	742	830	762	620	愛知	12%
	2020年	525	707	766	720	630	高知	8%
	2021年	475	904	990	988	745	山形	7%
	5ヵ年平均	517	782	848	802	688	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	465	900	990	985	750		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	静岡、茨城を中心に入荷する。 静岡、茨城が7月上旬から入荷量増える見込み。 茨城は生育順調で玉は大きくなるが、入荷量は少なくなる見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、単価は前年並の見込み。							
すいか	2017年	11,336	222	205	221	240	山形	29%
	2018年	12,458	231	249	235	215	新潟	15%
	2019年	10,875	170	202	161	155	神奈川	12%
	2020年	11,590	186	218	171	173	千葉	11%
	2021年	13,083	237	247	234	234	茨城	8%
	5ヵ年平均	11,868	209	224	204	203	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	13,000	235	210	195	195		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	山形を中心に入荷する。 7月上中旬にかけて千葉、鳥取、7月中下旬にかけて山形、長野を中心に入荷する。 6月下旬でハウスの入荷が終わり、露地の入荷が増える見込み。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。							

切花・鉢花の7月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 6月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2017年	1,781	38	
		2018年	1,377	44	
		2019年	2,005	35	
		2020年	1,749	45	
		2021年	1,597	35	
	5カ年平均	1,702	39		
2022年見通し	1,700	33			
概要	愛知、三重、長野から入荷する。上旬は新盆需要に期待したい。梅雨明けも早く、空梅雨となったこともあり、入荷は下旬まで落ちることなく多めで推移しそうである。下旬からは旧盆の引合いが出てくると思われる。				
小 ぎ	実績	2017年	1,549	27	
		2018年	1,491	32	
		2019年	1,858	21	
		2020年	1,672	31	
		2021年	1,467	24	
	5カ年平均	1,607	27		
2022年見通し	1,550	22			
概要	愛知、長野、埼玉、奈良から入荷する。上旬は新盆需要に期待する。梅雨明けが早く、空梅雨の影響から前進傾向の出荷が続き、下旬まで数量は多そう。				
カー ネー シ ョ ン	実績	2017年	1,090	35	
		2018年	1,113	42	
		2019年	1,070	41	
		2020年	1,005	45	
		2021年	976	40	
	5カ年平均	1,051	41		
2022年見通し	1,000	45			
概要	長野、北海道、輸入中心に入荷する。依然として輸入の物流経費と為替の影響は入荷量を圧迫する見込み。長野県産が前半出荷の山が来るのだが、例年に比べやや少ない予想で全体的にはやや少ない入荷の見込みである。				
か す み	実績	2017年	120	80	
		2018年	100	107	
		2019年	129	85	
		2020年	106	95	
		2021年	115	85	
	5カ年平均	114	89		
2022年見通し	120	80			
概要	福島、長野からの入荷となる。上旬は据え置き株のピークとなり、入荷が多いが中旬からは落ち着く見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	2017年	342	131	
		2018年	293	148	
		2019年	334	144	
		2020年	302	152	
		2021年	277	148	
	5カ年平均		310	144	
	2022年見通し		300	140	
概要	オリエンタルは新潟、北海道、岐阜、埼玉、宮崎、高知からの入荷となる。6月の低温で遅れた分、上旬は多くなりそう。鉄砲は兵庫、長野、愛媛からの入荷で入荷量は全般に多い見込み。				
洋 らん	実績	2017年	296	92	
		2018年	340	83	
		2019年	333	92	
		2020年	235	100	
		2021年	214	106	
	5カ年平均		284	93	
	2022年見通し		215	100	
概要	愛知、静岡、鹿児島国内産に加え、輸入品が入荷する。シンビジウムはニュージーランド産のエルフィンビューティ中心になる。デンファレは昨年よりも作付が減っており、入荷減。オンシジウムも減少傾向にあるが、昨年並は見込めそう。カトレアは7月を通して前月よりも若干減少、コチョウランは横ばいとなりそう。				
ば ら	実績	2017年	707	42	
		2018年	665	50	
		2019年	665	45	
		2020年	585	54	
		2021年	557	51	
	5カ年平均		636	48	
	2022年見通し		600	50	
概要	愛知、岐阜、三重、山形、長野中心。前半は例年より多めの入荷予想で後半は落ち着く見込み。例年に比べ梅雨が早く終わり、いち早い猛暑が品質、需要両面に与える影響が懸念される。				
枝 も の	実績	2017年	1,542	48	
		2018年	1,423	47	
		2019年	1,570	56	
		2020年	1,490	58	
		2021年	1,366	64	
	5カ年平均		1,478	55	
	2022年見通し		1,400	60	
概要	新盆、七夕と前半はイベントがあり、品目によっては引き合いが強まる。7/4から長野県産のヒペリカムの出荷が始まり、20日頃にピークをむかえる。高温の影響により山取りの木物が少なくなる代わりに日扇などの出荷に移る。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	2017年	20,548	1,091	
		2018年	21,592	1,078	
		2019年	23,440	983	
		2020年	25,748	1,020	
		2021年	23,394	992	
	5カ年平均		22,944	1,030	
	2022年見通し		23,300	996	
概要	<p>入荷量は前年並か。作付け内容の大きな変更はなく、6号MIXが主体となる。7号以上は赤・ピンク・白系が主力の色目となる。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(86.6%)、2位長崎(9.1%)、3位滋賀(1.2%)となっている。</p>				
フ ア レ ノ プ シ ス	実 績	2017年	27,379	3,567	
		2018年	27,245	3,082	
		2019年	36,823	2,504	
		2020年	29,373	3,215	
		2021年	31,387	3,439	
	5カ年平均		30,441	3,129	
	2022年見通し		31,000	3,387	
概要	<p>入荷量は前年並か。新型コロナウイルスの影響も落ち着き、苗の輸入も順調に入っている。しかしミディーは前年も単価が厳しかった為に減る見込み。 特に近年は白ミディー系の品種、数量が少ない。気温も上がり開花スピードも早い為、固めの出荷でお願いしたい（6分咲き程度）。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースで1位愛知(59.4%)、2位静岡(7.8%)、3位宮崎(5.7%)となっている。</p>				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	2017年	14,260	121	
		2018年	11,825	79	
		2019年	11,990	117	
		2020年	13,446	121	
		2021年	13,715	103	
	5カ年平均		13,047	109	
	2022年見通し		13,000	100	
概要	<p>閑散期に移行する為、入荷量は前年より減少か。例年通り3～3.5号の小鉢中心の入荷となる。気温の上昇もあり、花持ちなどの問題から販売は厳しく安価で推移する見込み。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛媛(66.9%)、2位岐阜(29.4%)、3位愛知(3.7%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	2017年	2, 3 6 2	5 3 5	
		2018年	1, 4 4 6	6 3 3	
		2019年	1, 8 0 6	5 5 4	
		2020年	1, 0 7 8	7 0 1	
		2021年	1, 1 1 3	4 1 2	
	5カ年平均		1, 5 6 1	5 6 3	
	2022年見通し		1, 0 0 0	4 0 0	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。愛知は総数で2～3割減の見込み。長崎、高知も前年と同じくほぼ無い状況である。山梨も少量を見込める程度で、全体で前年比3割減の見込みである。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(86.8%)、2位高知(13.0%)、3位山梨(0.2%)となっている。</p>				
スパテイフリウム	実績	2017年	2, 5 2 6	6 2 3	
		2018年	4, 8 2 3	3 8 1	
		2019年	5, 8 8 0	2 7 9	
		2020年	6, 0 8 3	3 1 4	
		2021年	7, 1 0 4	3 1 4	
	5カ年平均		5, 2 8 3	3 4 8	
	2022年見通し		6, 0 0 0	3 0 0	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。年々生産量が減少しているのが要因。4号での生産・出荷がメインである見込み。コロナ禍の観葉ブームも落ち着き、入荷量は減少でも単価は前年よりは厳しい見込み。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(66.1%)、2位愛知(26.0%)、3位岐阜(4.5%)となっている。</p>				
ドラセナ	実績	2017年	2 2, 8 2 1	7 5 4	
		2018年	1 9, 3 5 1	7 9 7	
		2019年	2 2, 5 7 5	5 7 7	
		2020年	2 0, 0 1 8	8 7 2	
		2021年	1 9, 9 3 4	1, 1 2 7	
	5カ年平均		2 0, 9 4 0	8 1 7	
	2022年見通し		1 8, 0 0 0	1, 2 2 2	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。輸入関連商品の植物原価が大きく高騰している。特に7号以上の原木類は今までの流通価格では販売できない状況になる。また、5号未満は先月に続いて品薄状態の見込み。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(57.1%)、2位沖縄(10.3%)、3位鹿児島(9.6%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.589
2022年7月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434